

【2016/7/4 経済学部ワークショップの様相】

《文学研究会—Enrich your Life through Literature—》

## 第3回詩と翻訳ポエトリーリーディングワークショップ 「描く女・描かれる女」



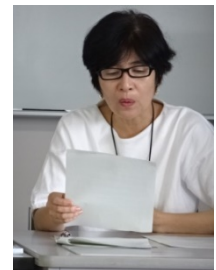
「詩と翻訳ポエトリー・リーディング・ワークショップ」は、2013年に立ち上げたワークショップシリーズで、今回で第三回目を迎えました。本ワークショップでは、詩人・歌人と詩の研究者、及び詩の翻訳者を国内外から招き、翻訳が困難だとされる詩の日本語から英語への翻訳について、議論を重ねています。会を重ねるごとに、参加して下さる詩人も歌人も研究者も増え、聞きにきて下さる参加者も増えました。

第三回目の「詩と翻訳ポエトリー・リーディング・ワークショップ」

は、「描く女・描かれる女」とサブタイトルをうち、国際色豊かな会となりました。本会では、詩人の伊藤比呂美氏、平田俊子氏、新井高子氏、山崎佳代子氏に自作の

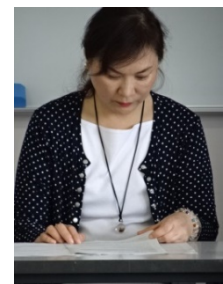


朗読をしていただき、歌人の川野里子氏、田中教子氏に短歌の朗読をしていただきました。また、オーストラリア国立大学教授のキャロル・ヘイズ先生、タスマニア大学教授のバーバラ・ハートリー先生（「財部鳥子の詩にみるシリア人の難民の試練」）、本学部准教授の菊地利奈（「翻訳できる詩できない詩—現代の「女」が描く「女」たち—」）が研究

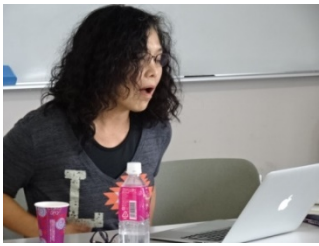


発表をおこない、国際日本文化研究センター教授の坪井秀人先生によるラウンドテーブル（ディスカッション）にて閉会、という盛りだくさんの会で、朝10時から夕方6時まで、丸一日を使用しました。

会は、ヘイズ氏、川野氏、田中氏による短歌の翻訳についてのパネル「短歌の英訳の可能性を考える—近現代女性短歌を例に—」からスタートしました。現代（女性）歌人として活躍される川野氏と田中氏が、それぞれに自作を朗読され、また、英訳短歌についての疑問をヘイズ氏に投げかけ、活発な議論が展開されました。

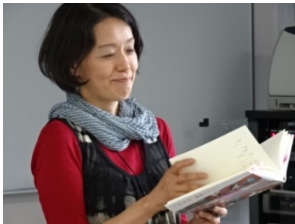


その後、会のハイライトとなった4名の詩人による自作朗読がおこなわれました。伊藤比呂美氏は、



熊本とカリフォルニアを行き来しながら暮らす詩人で、カリフォルニア暮らしの中で体験した日本語と英語による二重言語生活が垣間見られる詩「YAKISOBA」、そして、熊本の鯨という土地に伝わる伝説を盛り込んだ、現代・国際版「ナマズ伝説」ともいえる「鰻と鯨」を朗読してくださいました。

平田俊子氏は、ホワイトボードを使用しながら、言葉遊びを巧みにとりいれた、「蚊」のシリーズを朗読してください、会場が笑いにつつまれました。劇作家としてもご活躍される平田氏による朗読は演出も一味違うもので、空間が小さな劇場のように変化しました。



新井高子氏は、岩手県大船渡市の土地ことばで石川啄木の短歌を表現する、という<翻訳プロジェクト>を通して得た体験から、大船渡のことばを取り入れた詩を朗読。新井氏は、2011年3月11日の東日本大震災及び福島における原子力発電所事故以降、岩手県大船渡市にて「土地ことば訳プロジェクト<わく

わくな言葉たち>」を立ち上げ、活動していっしょに、いわゆる「方言」と呼ばれる「土地ことば」による詩作表現についても、お話してくださいました。

詩人の山崎佳代子氏はセルビアのベオグラードに住んでいらっしゃいます。十年以上も日本にいらしていなかった山崎氏が京都にご滞在中ということで、急遽、会での朗読をお願いさせていただいたにもかかわらず、快くお引き受けくださいました。ベオグラードでの暮らし、特に難民に視点をあててお話いただき、自作を朗読いただきました。



詩と短歌という形式の違い、カリフォルニアからベオグラードまで世界を背景にした日本語表現、「日本語」とひとことでまとめられない、各地方にいきる多彩な土地ことば



による表現、さまざまな視点から「日本語詩」ととらえるディスカッションが繰り広げられました。アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアと国際色豊かな背景のなかで、「日本語で表現すること」について改めて考えさせられるよい機会となりました。また、アカデミア内での研究活動は、研究者だけの集まりが多いものですが、研究者と創造者（作家・詩人・

歌人）が意見交換できる交流の場が文学研究をより豊かにすると痛感しました。詩人・歌人のみなさま、発表者のみなさま、ご参加くださった学内外のみなさま、ほんとうにありがとうございました。

最後に、会の開催をサポートしてくださった、滋賀大学経済学部後援会にこの場を借りて御礼申し上げます。また、本研究活動は、科研費（C）15K01915の研究計画のひとつとして実施しました。人文研究への支援が縮小されつつある現在において、詩という言語表現による芸術研究に理解をしめしていただき、感謝しております。（菊地利奈）



\* ジェフリー・アングルス氏が前日午後より体調不良となり、アングルス氏の7月4日の講演及び英訳詩朗読はキャンセルとなりました。そのため、プログラムに変更が生じていることを申し添えます。

日時： 7月4日(月)  
10:15~18:00

場所： 滋賀大学経済学部  
545共同研究室  
(第2校舎棟5階)

【朗読】

詩人・伊藤比呂美

詩人・平田俊子

詩人・新井高子

歌人・川野里子

歌人・田中教子

【研究発表】

- 「男性として女性詩を翻訳すること」  
ジェフリー・アングルス(西ミシガン大学准教授)
- 「財部鳥子の詩にみるシリア人の難民の試練」  
バーバラ・ハートリー(タスマニア大学教授)
- 「短歌の英訳の可能性を考える—近現代女性短歌を例に—」  
キャロル・ヘイズ(オーストラリア国立大学教授)
- 「翻訳できる詩できない詩—現代の「女」が描く「女」たち—」  
菊地利奈(滋賀大学准教授)
- ディスカサント:坪井秀人(国際日本文化研究センター教授)

# 描く女・ 描かれる女

第三回 詩と翻訳ポエトリー・リーディング・ワークショップ

経済学部ワークショップ 文学研究会

第三回 詩と翻訳ポエトリー・リーディング・ワークショップ

描く女・描かれる女

日時：2016年7月4日(月)10:15~18:00

場所：滋賀大学経済学部 545共同研究室(第2校舎棟5階)

<朗読者>

伊藤比呂美(詩人)

平田俊子(詩人)

新井高子(詩人)

川野里子(歌人)

田中教子(歌人)

<発表者>

ジェフリー・アングルス(西ミシガン大学准教授)

キャロル・ヘイズ(オーストラリア国立大学教授)

バーバラ・ハートリー(タスマニア大学教授)

菊地利奈(滋賀大学准教授)

<ディスカサント>

坪井秀人(国際日本文化研究センター教授)

<プログラム：午前の部>

10:15 挨拶

10:30~11:50 短歌朗読及び研究発表  
「短歌の英訳の可能性を考えるー近現代女性短歌を例にー」  
キャロル・ヘイズ × 川野里子 × 田中教子

12:00~13:40 詩の朗読  
伊藤比呂美 × ジェフリー・アングルス × 平田俊子 × キャロル・ヘイズ × 新井高子

13:40~14:30 お昼休憩  
\* 関係者以外は545教室に入れません。学内の学食・カフェもご利用ください。

<プログラム：午後の部>

14:30 ジェフリー・アングルス  
研究発表「男性として女性詩を翻訳するということ」

15:10 バーバラ・ハートリー  
研究発表「財部鳥子の詩にみるシリア人の難民の試練」

15:50 菊地利奈  
研究発表「翻訳できる詩できない詩ー現代の「女」が描く「女」たちー」

16:30~16:45 休憩

16:45~18:00 ディスカサント・坪井秀人(国際日本文化研究センター教授)  
ディスカッション及び質疑応答